

ブレイメンル商業新聞抄譯

一週間、新事  
烟草稅改革論



4271





414  
A 1988

不來梅商業新聞第一千三百七十一号抄譯

不來梅一月廿八日

一週間ノ新事

茲ニ普魯斯國ハ、烟草稅ヲ增加セシム可キ議案ヲ起シ、即今之ヲ  
 聯邦會議ヨリシニ議案ヲ為シ、國會アリハ帝王自ラ貴族及官吏中  
 名之ヲ帝國會ト爲ス。トハ諸聯邦ヨリ各其定直ノ議士ヲ出ス。原  
 裁權限大ニ違アリ。今ニ回附シタリ、此改革草案ハ、去ル年八百七  
 十三年、聯邦會代議士ニ由テ、編製セラレタルモノト、誠ニ能ク符  
 合セリ。○此草案ニ從ハ、一セント子ル量目ノ、製エラシタル葉  
 及ヒ莖ノ、輸入稅ハ、四十二マルク、金銀製エラシタルタバック工  
 業  
 及ヒ經バツクト名語之ヲハ、十マルク、シガール及ヒシガレットハ、九十  
 マルクト、定メタリ。○風袋ノ、斤量ニ関スル方法ハ、従前ノ通ニシ

大正十一年四月  
峯源次郎譯



テ、更ニ変革ヲ要セサルトセリ。○均稅地方稅高ヲ均一ニセシムル  
ル各團ノ領内ニ於テ、千八百七十八年四月一日以降ノ產ニ係ル  
烟草ハ、乾燥ヲシテ、未タ製工ヲ經サルモノ、一セント子ル毎ニ、  
二十四マルクノ稅ヲ課セラル可シトセリ。○六「ア」ル以下  
ノ土地ニ就キ、其廣狹ニ應シテ、出ス可キ費用ヲ定メタリ。○烟草  
畑ノ所有主ハ、各其畑ノ位置、及ヒ廣狹ヲ、精實ニ書面ニ認テ、七月  
十五日迄ニ、之ヲ其地方ノ租稅署ニ出ス可キ義務ヲ有ストセリ  
○出稅人ノ請願ニ依テ、稅ヲ借シ置ク試看曰我國ノヲ許スト  
虫氏、然レモ、此期ハ、今回聯邦會ヨリ布達ス可キ、借稅規則規則ノ  
制ニ從テ、其収獲セシ歲ノ翌年ノ八月三十一日ヲ、起テス可ラス  
トセリ

此烟草稅改革ノ、辨由辨由各トハ本邦地方官會議ニ在リ曰ク  
常備歲入ヲ以テ仕拂フ可キ歲出高ハ、是迄年々ニ増加セリ、千

八百七十二年ノ決算ニ於テハ、此歲出高ハ、三億零四百万マル  
クニシテ、而テ來ル會計年度ノ、計算草案即チ豫算ニ於テハ四億零  
六百万マルクナリ、即チ千八百七十二年以來、一億万マルク餘  
ノ歲出ヲ増加セリト虫氏、規則及ヒ不規則輸出入稅、為換印稅  
郵便餘金、電信餘金、汽車餘金、及ヒ銀行餘金ノ兩歲入ハ、千八百  
七十二年ヨリ、千八百七十六年ニ至ルノ期間ニ於テ、二億五千  
万マルクヨリ、二億七千九百万マルクニ上リタルノミニテ、即  
チ僅ニ二千九百万マルクヲ増加シタリ、而シテ千八百七十八年  
及ヒ千八百七十九年ニ於テハ、此二億七千九百万マルクヨリ  
多キ歲入アルハ、豫算ス可ラサル所ナリ云々ト  
又曰ク

烟草ハ、消費物中、第一ニ注目ス可キ者ナリ。○獨逸國ハ、是迄甚  
タ緩舒ナル、烟草稅ヲ収ムルヲ以テ、満足トセリ。○獨逸國內、烟



草ノ消費ハ他ノ諸大國ニ比スレハ大ニ夥多ナリト云ハ其消費税ノ高ハ著シクナレ○千八百七十五年ノ烟草税高ハ各其國ノ人負ニ割当ル時ハ一人ニ付テ左ノ如シ

佛國 六マルク九十六分

米國 四〃 五十二分

英國 四〃 六十九分

墺國 四〃 八十五分

魯國 零〃 四十二分

獨逸國 零〃 三十分

烟草ハ人々ノ嗜好スル物ニシテ而シテ實ハ却テ必須ナラサル贅物タルハ各人ノ確知スル所ナリ故ニ此物ハ獨乙國ニ於テモ亦殊ニ重税ヲ課セラル可キモノタルヤ更ニ疑ヲ容レサルナリ是レ均稅条約國ノ大會議及ヒ聯邦中ノ數國殊ニ普魯斯

ノ立法官ノ再次此件ヲ主張スル所以タリ○砂糖、茄菲及ヒ他ノ養物、共ニ又生活ニ必須ナル食糧ニ不輕ノ税ヲ課シテ以テ國ニ不少ノ歲入ヲ取ル現狀ヨリ推考セハ今烟草ニ輕税ヲ課シテ而シテ他ノ諸國ノ實驗ニ由テ其税高ノ夥多ナルヲ且ツ其高ノ規則正クシテ變セザルヲトテ明証セラレタル此一大税目ニ就テ漫然トシテ奉行ラ惣ルカ如キハ實ニ一種ノ則外則ト謂ハサルヲ得ナルナリ○今此烟草稅改革ヲ要スト可認スル時ハ獨乙國ハ墺魯、英、米、佛、伊ノ諸國ト同様ノ税高ヲ収メシトテ以テ目的ト為シ且ツ此改革ノ本ト為ス可レ○此事業ヲ達スルニハ彼諸國ニ執行セル烟草稅法ヲ多用スルヲ必要ナリトス可キカ如シ○先ツ英國ニ倣フテ内國ニ烟草耕作ヲ禁シ烟草消費稅ヲ率クルニ專ラ輸入稅ノ狀態ト為シ以テ其重稅ヲ収メシテ是法ハ現ニ烟草耕作ノ此ノ如キ廣大ヲ占メ



タル、獨乙國ニハ、適當セサル可シ。然ラハ則チ、埃國、仙國、伊國ニ行ハル、カ如キ、烟草專賣法ヲ起スカ、或ハ魯國、米國ニ設クルカ如キ、製造及ヒ販賣ノ税法ヲ拵ケ、合セラ輸入税ヲ加重スルノ外、他ニ良法ナカル可シ。獨乙國、地理上ノ位置ト、其供給需要ノ現状トニ就テ考フレハ、彼ノ西者ノ中、專賣法ヲ撰ム可キ理アルニ似タリ。然レモ、此專賣法ヲ採ル時ハ、種々ノ難事ヲ生シ、可シ、而シテ此難事ハ、先ツ廣直ナル豫備ノ作業ニ著手スルニ非レハ、之ヲ免ル、トテ得可ラス。故ニ此法ハ、今日ノ急ニ及フ能ハサルナリ。是故ニ、今直チニ、烟草税ヲ増加セシメシト欲マハ、畢竟、後來施行スル処ノ、内國烟草製産税、及ヒ外國烟草輸入税ノ法ヲ固守シ、而シテ其課税ノ元位何レノ何レニ付テハ即チ其元位ナリヲ増加セシムルヨリ、他ニ施ス可キ方法ナカル可シ。然レモ、大ニ製産税則ヲ改革シテ、其増加ヲ獲ント欲セハ、

固ヨリ内國烟草ノ課税法ヲ變更セサルヲ得ス、即チ其容積ニ課スルノ法ヲ廢シテ、後來ハ、製産品ノ量目ヲ其課税ノ本トシテ、カ、ル可カラス。凡ソ、此等ノ理ニ後シ、烟草税ヲ改革シテ、歲入ヲ増加マシムルニハ、已ニ千八百七十三年、食塩税ノ件ニ付キ、聯邦會ヨリ撰任セラレタル、委員ノ報告書中ニ於テ、正當ナルモノト、認めラレタル方法ニ從フテ、良トスルヤ必セリ。今、回音魯斯ヨリ出シタル、税法草案ハ、則チ右ノ報告書ニ附屬シタル、草案ニ照準シテ、編製マシモノナリ云々ト高務及ヒ法務ノ件ヲ委任セラレタル、聯邦會、代議士諸員ハ、國法ヲ以テ調染、舖ノ規則ヲ定ムルノ問題ニ付、第一次會、總上ノ討議ヲ遂ケタル後、一應會議ヲ休止シタリ云々。此項ハ、烟草税ニ全ク關係ナキ、新聞紙上ノ事件タルヲ以テ、今マ之ヲ詳訳セズ。埃國ヨリシレシヤ、境ヲ越ヘテ、粗製亞麻ヲ、無税ニ輸入スル



ニ付キ、普國大蔵卿ヨリ、右達シタル規則ニ從テ、警察局ハ「ラシニ  
スフー」ト<sup>此</sup>ニ於テ、毎週、亞麻ノ市場ヲ開ク可キ、定規ヲ設ケケリ  
云々（此項モ全シク之ヲ畧ス）  
又今、伯林ニ於テ開キタル、獨逸農業會議ハ、或土地ニ於テ、酒類釀  
造及ヒ其受賣ヲ許可スルノ支ト、ソシテ、毒ヲ防禦スル  
為メニ、魯國、澳國ヨリ、牛ヲ輸入スルヲ禁スルノ事トニ、同意スル  
ノ事ヲ述ヘタリ云々（是項モ亦詳説セズ）

烟草稅改革ノ論說

今回、普魯斯ヨリ出シタル、烟草稅及ヒ烟草輸入稅、増加ノ原案ハ  
修正加除ヲ受ケスレテ、聯邦會ノ、教次ノ討議ヲ經過シ得可キ事  
是レ吾輩ノ大ニ疑フ所ナリ。吾輩ノ此疑ヲ起コス、所以ノ理由  
知ラント欲セハ、此原案ハ、即チ一千八百七十三年ニ於テ、聯邦會ノ  
豫議委員ヨリ、可廢ト決セラレタル原案ニ、甚ク相同レ久而シテ

烟草製産人ノ關係ハ、尔來、著シキ變化ヲ受ルナリ、今日ト雖モ  
猶ホ未タ重稅ヲ負擔スルニ違当ナル、景況ニ至ラザルノ事、田ア  
ルニ、一省スルヲ要スルノミ。此原案ハ、此ノ如ク、可決ヲ得  
ノ恐アルヲ以テ、聯邦會、殊ニ其南部獨乙諸邦ノ、代議士ハ、多数ノ  
可認ヲ得可キ様ニ、此原案ノ、變姿セシムルコソ、實ニ違当ノ事ト  
為ス可シ、然レモ、聞クカ、如クシテ、彼諸邦ハ、當ニ此原案變姿ヲ試  
シムルベシト雖モ、其稅高ヲ輕減スルノ方嚮ニ、就カスレテ、却  
テ之ヲ猶ホ一層ノ加重ニ至ラシムルヲ、勤ムルナルベシト云  
ヘリ。此原案ニ從ヒ、從來ノ製産稅、及ヒ輸入稅ヲ、單一ニ増加セ  
シムルノ方法ニ由テ、以テ其稅高ラレテ上、如キ猶ホ一層ノ加重  
ニ至ラシメンコトヲ欲スルハ、實ニ其成リ難キ事ナル、何トナレバ  
二三ノ他邦ノ、代議士々、此普魯斯原案ヲ駁撃スルノ原因ト爲レ  
テ、當ニ陳述スルナルベキ、諸種ノ難事ヲ、右ノ方法ノ為メニ、增長



セシムルノ理アルカ故ナリ、是ニ因テ之ヲ見レハ、只此原案ノ交  
察ニ上テスレテ、遂ニ思フクハ、全ク新法ヲ採ル可シトスルニ至  
ラン、豫察スルニ、此新法トハ、即チ検査官ヲ置クト、及チ専賣法ヲ  
起ストノ、二法ヨリ外ナラサル可シ  
此二法中ノ一ハ、果シテ聯邦會、及チ帝國會ノ、多数ノ可認ヲ經テ、  
實ニ其施行ニ至ルヤ、否ヤ、是レ固ヨリ未ダ知ル可ラスト、然レ、吾  
輩ハ、今茲ニ、此二法ノ利害得失ヲ、討論スルハ、無益ノ勞ニ非カル  
ヲ信ス

検査官設置ノ法ハ、其實益ヲ為メニ緊要ナル、諸規則ニ由テ、仮令  
テ、大ニ賣買ノ繁榮ヲ妨障スルノ害アルラ免レズト、然レ、烟草耕  
作者、及チ烟草輸入者ヲシテ、直接ニ重稅ヲ負擔セシムナルノ、後  
性ヲ有スト謂フ可シ○然リト、然レ、烟草製造ハ、此法ヲ為メニ、甚  
シキ妨害ヲ被マリ、且ツ数千ノ小製造所ハ、之カ為メニ廢業シ、遂

ニ製造ノ業ハ、僅ニ二三ノ大カ者ノ手ニ歸スルニ至ル可シ、如何ト  
ナレハ、検査法ノ為メニ課セラル可キ入費ハ、小カ製造者ノ及フ  
可キ所ニ非カルカ故ナリ○此法ヲ設クル時ハ、烟草ノ需要モ、亦  
從テ減却スルハ、必然ノ理ニシテ、吾輩ノ疑ハサル所ナリ、然レ、  
今豫メ此需要減却ノ數ヲ測量スルハ、今日ノ急務ニ非カル可ク、  
又此二法ノ利害ヲ比較スルニ就テ、必要ノ事件ト謂フ可ラス、如  
何リナレハ、此二法ノ何レノ者ヲ履行スルモ、共ニ存シク需要ノ  
減却ト、輸出ノ癸削トヲ、生セシム可キカ故ナリ○此検査官設置  
ノ法ハ、右ニ論セシ如ク、製造及チ賣買ノ繁榮ヲ妨ケテ、以テ經濟  
上ノ損害ヲ醸スノ外、又他ノ一大弊害ヲ生ム可キ思アリ、豈畏レ  
ナル可ケンヤ○茲ニ、魯國及チ米國ニ於テ、此検査官設置法ノ如  
何ナル成績ヲ顯ハセルヤ、向フニ、米國ニ於テハ、需要ニ供スル  
烟草ノ半高以上ハ、検査官ノ目ヲ脱セ、云ヘリ、又魯國ニ於テ、



ハ、烟草ヨリ収ムル歳入ハ甚ク僅少ニシテ思ラクハ検査官貨ハ  
私収ムル所ノモノナリ、却テ著シク少額ナラント、臆測セラルル  
是ヲ以テ之ヲ見レハ、魯國及ヒ米國ノ烟草製造者ハ、其製造ノ檢  
査ト、製造税ノ徴収トヲ、職掌トセル官貨ヲ、一テ違笑セシムルノ  
術、吾テ違笑ヲ為サレハルノ術ヲ、知レリト謂ハサルヲ得ス。○今  
此法ヲ、我獨乙國ニ採用シ、幸ニ最善良ノ名譽ヲ以テ稱セラレタ  
ル、我官貨ヲシテ、上ノ如キ賤俗ニ当ラシムルヲ試ムルハ、抑モ亦  
可ナリトスル乎。○否、吾輩ハ、此事ノ如キハ、宜シク之ヲ遠カケ  
ル可ク、ナルヲ信ス、如何トナレハ、凡ソ人ノ性ハ、利ニ赴キ易  
シ、況ンヤ、此法ヲ設ケタルノ日、教箇ノ大製造所ヲ持テ、ルニ臨  
ミ、少レク奸回ヲ行ヘハ、大教ノ金貨ヲ占メ得可キニ於テオヤ、此  
ノ如キ機ニ臨テハ、是迄賄賂ヲ貪ラセルノ名譽者ト云ヒ確固ニ  
直ナル能ハスレテ、而メ右側ニ目ヲ置ク可キ時ニ當テ、却テ眼ヲ

左方ニ轉スルハ、誠ニ人情ニ於テ、無之ト謂フ可カラサルナリ。○  
輸出入税、及ヒ製造税、官貨ノ多数中一タヒ賄賂ノ根ニ、其一部  
ニ生スル時ハ、彼ノ蔓草ノ如ク、急ニ吾國內ニ廣延シ、其弊ノ及  
スルハ、只ニ輸<sup>出</sup>税及ヒ他ノ諸税ノ徴収ヲ害スルニ止マラスレテ  
遠ニ弊乙國ノ人民ノ全体ノ道徳ヲ傷フニ至ルモ、尚ホ怪ム可カラ  
サルナリ。○吾輩ノ熟慮スル所ニ從ヘハ、此害ハ、前ニ論レタル經  
済上ノ損失ヨリモ、猶ホ一層ノ危殆ナルヲ畏ル、此一害ヲ以テ  
之ヲ論スルモ、此検査官設置ノ法ハ、其宜シク採用スベカラサル  
者タルヲ知ルニ足レリ  
專賣法ヲ論センニ、抑此專賣法トハ、之ヲ單一ニ云ヘハ、總テ烟草  
高賣、及ヒ烟草製造ニ係ル私業ヲ悉ク撲滅スル法ト云フモ、同一  
義ナリ。○只烟草耕作ノ、獨リ存ス可レト望ヒ、賣買繁榮ナル日  
ニ至ル迄、如何、其益ヲ増進スルヤ、否ヤ、此議問ハ、ホシガリ



及ヒ「エ」各地烟草耕作人ノ最モ善ク答辨シ得可キ所ナリ、  
「ホ」ン「グ」リ「ヤ」ニ於テハ、烟草専賣法ヲ履行スル以來、其耕作ヲ減シ  
タリ、エ「ル」カ「ス」ニ於テハ、仙國専賣法ノ支配、免レシ「エ」ル「カ」  
「ス」ノ一年、戦後ノ条約ニ由テ仙國以來、其耕作ヲ増シ、且ツ其収獲ノ利  
モ、割合ニ多キヲ加ヘタリ。○此専賣法ハ、如何ナル度ニ於テ、高賣  
及ヒ製造ヲ撲滅スルノ効カアリトスル乎、是レ、此高賣及ヒ製造  
以テ、家業トスル人、貧ノ多ク、注目スル時ハ、照然トシテ見ル  
可キナリ。○最後ノ戸籍調子ニ從ヘハ、普魯斯ニ於テ、烟草高賣人  
ノ數ハ、三千八百三十九員ナリ、尤モ是レハ、唯烟草及ヒ製工烟草  
ノ高賣ヲ、専業トスル者ノミノ數ナリ。○獨シ全國一、普魯斯ト同  
一ノ比例ニ於テ、烟草高賣者アリト定スル時ハ、全國中ニ、六十  
人アル可シ、然レモ、實ハ南部獨逸ノ烟草耕作地方ニハ、烟草仲買  
人モ、烟草高賣人モ、此比例ヨリ甚タ多ク、又、最近接ノ諸府ハ、大

ニ烟草輸入者ニ富メリ。○今此件ニ注意シテ、能ク之ヲ計算セバ、  
烟草高賣ヲ専ラトスル者ニシテ、専賣法ヲ施行セラレ、其  
食ヲ失フ者ノ數ハ、八千乃至九千ニ至ル可シ。○此専業者ノ外、烟  
草高賣ト、他家業トヲ兼ヌル者、甚ク夥多ナリ、殊ニ普魯斯ノ  
邊、十万人ノ烟草高賣人ハ、又、皆、此ニ算入セラル、者ニシテ、多ク  
其家産ヲ損耗セラル可キナリ。○又烟草製造所ニ、使役セラル、十  
万餘人ノ貧ノ内、指揮者及ヒ會計者等ト為テ、雇用セラル、者、大  
約一万人アリ、是、皆、皆、忽然其食ヲ失フニ至ラン、而シテ「タ」バ  
「ク」及ヒ「シ」ケ「ル」製造所ノ職人、サ「ク」モ九万ノ内、専賣法ニ屬スル、  
製造所ニ於テ、再ヒ食ニ就ク者、幾何人アル可キ、是數ハ、方今、專  
賣法ヲ施行スル諸國ノ職人ノ貧數ニ、一目、下セバ、自カラ瞭然  
タリ。○仙國ニ於テ、其數一万余人アリ、坤國ニ於テハ、二万五  
千人アリ、故、今若シ獨シ仙國ニ、専賣法ヲ行フニ、三万ノ職人ヲ要



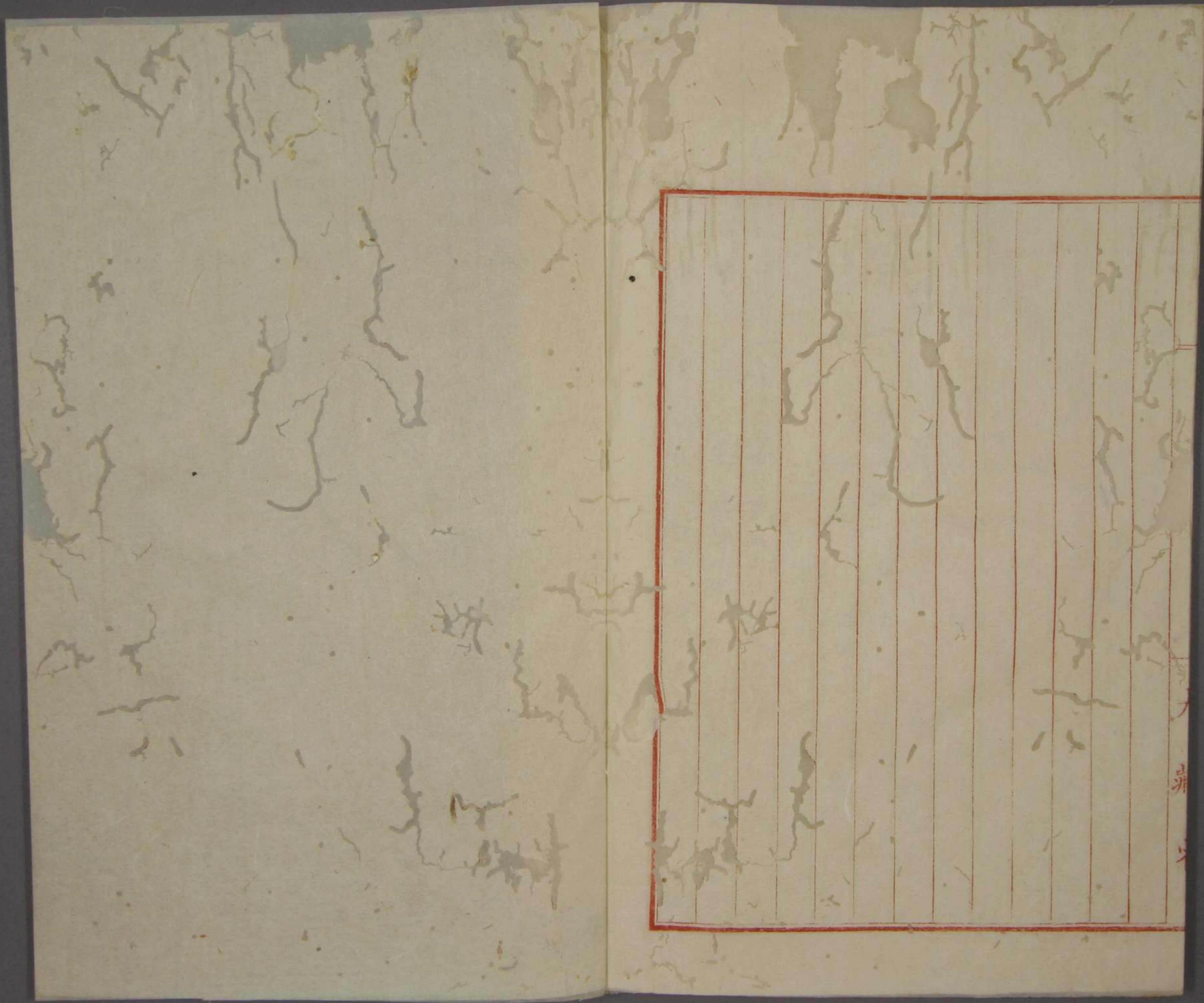
ストモ亦過小ノ豫算ニホツル可シノ前ニ論セシ、烟草高賣人ノ外、此ノ如ク六万ノ職人モ、亦一頓ニ其食ヲ失フ可シ、此夥多ノ入貨、及テ此内幾分ハ、又其家族ヲ養フ者ア、ハ、其家族マデヲモ合セテ、之レラレテ、一時ニ食ヲ失ハシメ、復タ急ニ他ノ業ニ就リ能ハサレシム可キ情状アルニ際シ、此專賣法ヲ施行セントスルハ、誠ニ好ミス可ラサル試檢ナリト、謂ハツルヲ得ス

以上、陳述ナシ如キ理由アルヲ以テ、聯邦會ハ、検査官設置ノ法ヲモ、專賣ノ法ヲモ、輕易ニ之ヲ可認シ能ハサル可シ、而シテ恐ラクハ、今回モ亦、四年前ニ於ケルカ如ク、烟草ヲシテ、大金ヲ流出ス可キ、泉源タラシムルノ議案ヲ、此聯邦會ノミニテ、已ニ廢棄ニ至ラシムルナラン、是レ吾輩ノ豫知スル所ナリノ獨乙全國、百分ノ二ノ人貨ニテ、一部ハ、全ク其生活ヲ營ムノ本業ト爲シ、又一部ハ、其生計上ノ大助ト爲セル、商業及テ工業タル者ハ、苟モ之レヲ興廢

セントスルニ當テ、經濟上ノ利益ヲ失ハサラレメント欲スル所見ノ如ク、果シテ尽ク容易ナラサルナリ

ゲ、エ、ル





大  
鼎  
火



